

## 歴史・文化のまち

## 大村の歴史と文化

## 大村が生んだ偉人

福祉と教育の先駆者



石井 筆子

衆議院議長を務めた



楠本 正隆

三十七士の剣の達人



渡辺 昇

明治維新達成に活躍



渡辺 清

## 【歴史】

大村の歴史は古く、黒丸遺跡や富の原遺跡、竹松遺跡に見られるように、太古から人々の生活が営まれてきました。

中世には、大村氏が台頭し、大村に城下町を築きます。戦国時代の領主大村純忠は日本初のキリシタン大名となるとともに、南蛮貿易を進めます。純忠は、長崎を貿易港として開港し、後にイエズス会に寄進したり、天正遣欧少年使節をローマへ派遣するなど、歴史に残る偉業を成しました。

江戸時代、幕藩体制のもと、大村氏が治める大村藩は、2万7千石の城下町として栄えます。海外の文物を運ぶ長崎街道が通り、宿場町としてもにぎわいました。潜伏キリシタンが発覚した「郡崩れこおりぐずれ」もありましたが、大村藩では改易転封もなく、明治まで続きました。

幕末には、渡辺清・昇兄弟や楠本正隆らが各藩の志士と連携を強め、早くから勤王を掲げ、薩摩藩や長州藩と協

## 【文化】

力し倒幕に活躍します。大村藩が薩摩・長州・土佐に次ぐ3万石の褒美を賜ったことは特筆されます。

明治以後は、陸軍や海軍航空隊が置かれ、都市の整備が進み、海軍航空廠の設置による人口増などから昭和17年に大村市が誕生しました。

「シーハットおおむら」は、市民のスポーツ活動と文化活動の拠点として幅広く活用されています。

また、「長崎OMURA室内合奏団」は、県内初のプロ合奏団として、市民や子どもたちに対してのみならず、市外にも活動の場を広げています。

「大村の郡三踊(寿古踊・沖田踊・黒丸踊)」は、約500年の歴史があり、寿古町、沖田町、黒丸町にそれぞれ伝わる国の重要無形民俗文化財に指定された民俗芸能です。令和4年に沖田踊・黒丸踊は、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。

## 国指定重要無形民俗文化財「大村の郡三踊」



黒丸踊



沖田踊



寿古踊